



NEWS LETTER

No.16
2015

グローバル化時代の男女共同参画

—山形大学男女共同参画国際シンポジウム開催(平成27年2月19日)—



小山学長挨拶

「グローバル化時代の男女共同参画」をテーマに、大学コンソーシアムやまがたとの共催で国際シンポジウムを開催し、62人(女性35人、男性27人)の参加をいただきました。主催者を代表して小山清人学長より、情報や経済のグローバル化が続く中で、課題を理解し解決策を提案できる人材、新しいアイデアなどによって、新しい社会的価値を作る多様な人材が求められており、そのような中での今回のシンポジウムの開催です。貴重な提言と豊かな議論が期待されます。という挨拶がありました。

男女共同参画国際シンポジウム
「『男女共同参画に向けた大学連携・山形宣言』3周年
グローバル化時代の男女共同参画

2015年
2.19 (木) 13:30~16:30
山形大学 基礎教育3号館312教室
リモート配信：工学部中京館C 教壇
農学部3号館401 講義室

参加無料
託児あり
(事前申込み必須)

【第1部】 講演
13:00 開場
13:30 開会
13:35 特別講演 「女性が輝くために」
■講師/高松和子氏 (公益財団法人21世紀職業財団理事兼専務)
特別講演 「韓国における理工学分野の女性研究者増加策と支援」
■講師/Dr.Mai Shick Shin (韓国全南大学)
14:50 山形大学報告/木村松子(山形大学男女共同参画推進室室長兼専務)

【第2部】 パネルディスカッション
15:10 「グローバル化時代の大学における男女共同参画」
■パネリスト/Dr.Mai Shick Shin (韓国全南大学)
高松和子 (公益財団法人21世紀職業財団理事兼専務)
神田あずさ (山形大学基礎教育文化学専攻)
■コーディネーター/阿部宏彦 (山形大学基礎教育文化学専攻)

16:30 閉会
17:00 懇親交流会 (任意参加) [16:45より受付開始]

お問い合わせ・お申込み先
山形大学男女共同参画推進室
TEL:023-626-4937 FAX:023-626-4814
E-mail:gender@yamagata-u.ac.jp
http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/



基調講演 高松和子氏

基調講演「男女が共に輝くために」

高松和子氏(公益財団法人21世紀職業財団理事・事務局長)

高松氏から、女性が活躍する企業は経営指標が良い。モノカルチャーな組織は脆弱であるが、多様性のある組織は強く、持続的に成長する。女性が活躍できない組織では、ダイバーシティは実現できない。上司にとっても女性にとっても課題となるのが、固定的性別役割分担意識の克服である、ということが具体的なデータを基に示されました。

また、女性に対しては、続けること、成果を残すこと、失敗を恐れずチャレンジすること、両立も楽しむこと、支援制度はフルに使うというよりセーフティーネットと考えること、というアドバイスと励ましがありませんでした。地域の方の参加も多く、「『女性はもっと前に出て』という言葉に同感。私もこのことを伝えて行きたい」「上司に是非聞いてもらいたい」という感想が寄せられました。

特別講演「韓国における理工系分野の女性研究者増加策と支援」

シン マルシック氏(韓国全南大学教授 女性科学技術支援センター(WISET)光州全南圏域事業団長)

通訳:朴 智恩さん(地域教育文化学部4年生)



特別講演
シン マルシック氏

韓国では、2001年から科学技術系の女性研究者育成が強化され、2002年に法律が制定されました。2011年に韓国女性科学技術者支援センター(KAI-WISET)が発足し、全国に4つの圏域事業団と16の地域事業団が設置され、女性のライフステージに応じたプログラムが用意されています。女性人材育成プログラムでは、中学・高校生対象の理工学体験事業、学生対象の工学能力強化事業、大学院生対象の工学研究チーム事業、理工系研究者対象のメンター事業があります。成果としては、理工学分野の女性学生割合が、26.6%(2008年)から27.0%(2012年)に増加したこと、博士課程の女性数は、1999年と2012年を比較すると理学分野で483人、工学分野で262人増加したことがあげられます。

	韓国(2012年)	日本(2014年)
女性研究者比率	17.7%	14.6%

OECD加盟国34カ国中、韓国の女性研究者比率はかつて最下位にありましたが、2008年からは日本を抜いて上昇をしています。
(出典:総務省 科学技術研究調査報告)

山形大学小白川図書館1階「男女共同参画図書コーナー」開設

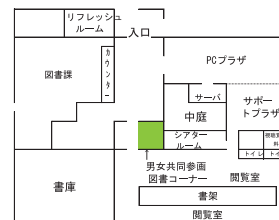
2月13日(金)

小白川図書館および男女共同参画推進室が保有する男女共同参画、ジェンダー、女性学関連図書を、学生、教職員、一般の方々からより一層、ご利用いただくため、特設コーナーを開設しました。また、国立女性教育会館からも1年間 200冊を借用できることになり、図書の入れ替えも行う予定です。合わせて常時 800冊程の図書が配架されています。

また、この度、日本女性学会から学会誌『女性学』15冊の寄贈もいただきました。大いに利用いただきたいと思います。



オープニングセレモニー



小白川図書館1階平面図

パネルディスカッション「グローバル化時代の大学における男女共同参画」



パネルディスカッション

相互理解について卒業研究に取り組んだこと、さらに国際理解教育について研究を続けていく夢が発表されました。

会場からも地域の女性リーダーの現状や課題を踏まえた質問が出されたり、理工系分野にも女性教員が身近にすることで学生の意識に与える効果があるのではないかという意見が出され、充実した内容となりました。

パネルディスカッションは、阿部宏慈理事・男女共同参画推進室長の進行でシン先生を含む3人のパネリストによって行われました。理工学研究科の黒谷玲子准教授から、「女性研究者の仕事と育児」と題して発表があり、日本ではロールモデルがほとんどなかったため、女性研究者の下で思いきり研究がしたいと思い米国に行ったこと、山形大学に着任後、2児を出産しながらもフェロー(准教授)に昇進し、睡眠が4時間ということも多いが、充実した毎日をお過ごしているということが紹介されました。地域教育文化学部4年生の神田あずささんからは「グローバル時代に生きる女子大学生として～これまでの経験と今後の夢～」と題して発表がありました。日韓の

報告「山形大学の男女共同参画施策の成果と課題—平成26年度アンケート調査から—」

男女共同参画推進室コーディネーター 木村松子

山形大学全教職員・大学院生を対象に、7月に行ったアンケート調査(有効回答数1,948、回収率46.8%)の結果を報告いたしました。今回、初めて介護についての調査とポジティブ・アクションに関する意識調査を加えました。職場環境については、過去の調査と比較し改善傾向が続いていることが分かりました。ワークライフバランスのために必要なこととして、多かったのが「上司の理解」「介護への支援」「病児保育」でした。報告書や男女共同参画推進室のホームページでも紹介いたします。是非ご覧下さい。

平成26年度 女性研究者裾野拡大セミナー

「理学部で何ができるの?
～女子高校生のための山大理学部案内～」

講師：全学科の担当教員

参加人数：45人(県立山形西高等学校1年生)

9月1日(月)
13:30~15:40

理学部

「理学部の研究室を覗いてみよう」

講師：全学科の担当教員

参加人数：71人(県立山形西高等学校2年生)

12月13日(土)
13:30~16:30



学科紹介のプレゼンの後、高校生の中に、女性の学部生・大学院生が数名ずつ加わった小グループでの交流が行われました。理系選択への迷いがなくなったという感想が出されました。



研究室の紹介を行った学生に、研究内容だけでなく学生生活についても多くの質問がありました。高校ではできない実験体験ができて良かった、という声がありました。

「女子高校生のためのランチョンセミナー
～これからのキャリア形成を考える上で～」

講師：農学部女性教員

参加者：30人(女性27人、男性3人)

8月3日(日)
12:30~13:40

農学部

「企業に聞いてみよう!
～修士号を得て就職するメリットって!??～」

講師：大串万葉氏(キューピー株式会社人事採用チーム)
遠藤雅明氏(日東ベスト株式会社人事課)

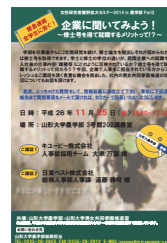
参加者：学部生40人(女性20人、男性20人)

修士取得後に就職するメリットや会社の男女共同参画の状況について講話がありました。食品系以外の企業についても同様のセミナーをまた開催してほしいという要望が出されました。

11月25日(火)
15:40~17:10



女子高校生各6人のグループに、女性教員と学生が1人ずつ入り、和やかな雰囲気の中で講話が行われました。ワークライフバランスや仕事と出産なども話題となり貴重な経験となったとの感想が出されました。



男女共同参画ランチミーティング

12月25日(木)

所属や職種を超えて、ワークライフバランスをテーマにランチミーティングを行います。今年度2回目は、小山庄長も参加して懇談されました。今年2人目のお子さんが誕生したという男性教員から、一時保育を利用して妻の入院を乗り越えたものの、山形に知り合いのいない妻のケアも課題だという話がありました。また、失敗も含めた子育て経験を聞いて、「ほっとした。これから相談にのっていただきたい。」という感想がありました。



13人参加

学長・学部長と教職員とのワークライフバランス懇談会 全学部等で開催

理学部
10月7日(火)

「子育てと働き方 などについて」

人文学部
1月9日(金)

会議時間の持ち方や、残業についての意見交換が行われ、育児環境の支援として24時間ベビーシッターの整備等を県や市に働きかけて欲しいという提案がありました。

また、将来の親の介護への対応等についても意見が出されました。

22人参加

「ワークライフ バランスについて」

地域教育文化学部
8月26日(火)

オープンキャンパスの時に実施した「男女共同参画パネル展」のアンケート結果報告が行われました。また、産休時の代替教員の手配や介護休暇等について意見交換が行われました。その後、女性教員比率向上についての意見交換も行われました。

18人参加

「ワークライフバランスについて」 「女性教員が増えるためには」

「女性教職員が仕事を続けていくための環境—現状とこれから—」をテーマに小倉教授よりショートレクチャーがあった後に、労働時間の管理や意識について話し合われました。また、女性教員の比率向上のための環境作りや「女性限定公募」をめぐって意見交換が行われました。

34人参加

「男女ともに働き やすい環境の整備に 向けて—病児保育を中心に—」

医学部
1月16日(金)

医学部保育所の運営状況の報告の後、病児保育の必要性や実施の可能性について話し合われました。一方で親が休みやすい職場環境が出てきていること、その際、女性が休むのが当然と考えるのではなく男性も休みやすい環境の整備について多くの意見がありました。保育所と幼稚園の二重保育についての要望も出されました。

22人参加

「ワークライフ バランスについて」

工学部
7月17日(木)

育児に積極的に関わっているという男性教員の話を受けて、妻に任せてきたという世代から、男女の生活が変化してきていること、女性も男性も安心して生活していける健康的な職場にしたいという話が出されました。

また、女性教員を増やすには女性研究者の裾野拡大を同時に進めていく必要がある等の意見がありました。

14人参加

「働きやすい職場環 境を実現するための ワークライフバランス」

農学部
6月30日(月)

産休等による職務復帰後の仕事に対する不安や、休みを取りにくい環境の改善に向けて意見交換が行われました。

その後、女性教員比率向上に向けた懇談会が行われ、家族のある研究者にとっては地理的な問題による応募の困難さがあることや女子学生の大学院進学者が少ないことなどの報告が行われました。

15人参加

「ワークライフバランスについて」

基盤教育院
9月19日(金)

産休育休時の代替教員の確保や休みを取りやすい職場環境にしていくことについて意見交換が行われました。子育て期だけでなく親の介護が必要になる頃には、自分自身も体調が悪くなっていたり、仕事の責任もある上に、親が遠隔地にいるなどの困難があることなどの体験が率直に出されました。

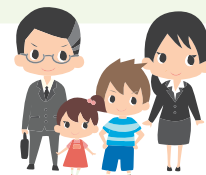


17人参加

男女共同参画関連の法改正情報

◎次世代育成支援対策推進法が10年間延長(平成26年4月23日施行)。

次世代育成支援対策推進法が平成37年3月31日まで延長されました。子どもが健やかに生まれ、育成される環境を更に改善し、充実させることが求められています。また、新たな認定(特例認定)制度が創設されました(平成27年4月1日施行)。



◎パートタイム労働法の改正(平成27年4月1日施行)

パートタイム労働者の公正な待遇を確保し、納得して働くことができるようにするため、「短時間労働者の待遇の原則」「雇用管理の改善措置内容の説明義務」「相談体制の整備・相談窓口の明示」が新設されました。

◎「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律案」が閣議決定(平成26年10月17日)され、現在審議中

女性の職業生活における活躍を迅速かつ重点的に推進し、もって豊かで活力ある社会を実現することを目的として、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律案」が閣議決定され、現在審議中です。法律案では、301人以上の事業主に対して、女性の活躍状況の把握や課題分析、行動計画の策定・届出・公表等が義務づけられています。

大園 真子 先生

理学部地球環境学科・講師



◎研究職に就いたきっかけ

私の研究は「固体地球物理学」や「測地学」と呼ばれる分野です。精密測量機器を使って地表の変動をmmの誤差レベルで観測し、その変動の要因やメカニズムを調べています。地殻変動は地震や火山活動に関するものが多いため、それらを対象とすることが多いです。現在は2011年東北地方太平洋沖地震の後の東北日本や北東アジアで発生している地殻変動を調べたり、カムチャッカや北海道の火山活動に伴う地殻変動を調べたりしています。フィールドワークが好きで、大学での学生・研究生活が自分に合っていたので、それを続けた結果、研究職に就いたのだと思います。

この分野に興味を持ったのは学部1回生の時です。高校の物理が好きだったので、大学は理学部に進んでみたものの、大学の講義が難しく感じ、

どうしようかと困っていたところに、地球の動きを物理の知識を使って調べる「地球物理学」という分野があることを先輩に教えて貰いました。(転学科をして)その分野の授業を聞くうちに、地球を相手にする実践的な部分が面白くなり、特に興味を持った測地学の先生の研究室で卒業研究を行いました。その後、将来研究者になる、という強い気持ちは特にないまも、ただ、今は研究を続けてみたいと思って大学院に進学して学位を取りました。途中、院生時代には自分の無能力さと将来に悲観して退学し、社会人になりました。が、すぐに大学での研究生活が恋しくなり、半年後には院試を受け直して再入学した経緯があります。

学位を取得して卒業し、2年間ポスドクで働いた後、山形大学に運良く採用して貰い、研究者になったというのが自分のこれまでの経歴です。進学先、退学や再入学、そしてポスドクとしての行き先、これらは全て自分の気の赴くままに色々な大学へ進路を決めたため、山形大学に来るまでに、結局4つの大学で在籍して学生・研究生活をしてきました。各大学でそこにいる人たちの研究のスタイル、スタンスを見ることができたのは非常にラッキーでした。

◎研究者になるまで…学生時代に気になったこととその答え

やはり気になるのは学費と将来への不安だと思います。学費については、あくまで私個人の意見ですが、将来就職するつもりがあるのなら、奨学金を借りて、将来に対して覚悟を決めれば良いと思います。また、大学院では奨学金の返還免除や研究奨励費に応募するチャンス、RAやTAでの収入も増えます、これらは、金銭的な助けのみならず、研究者になるためのよい修行にもなります。

いい年まで大学にいて、なおかつ職に就けるかどうか…という不安、大学での研究生活が充実できていれば、自ずとその普段の経験が職に繋がると思います。もったいないのは、不安がって機会を逃し、行動しないことです。研究職でない他の職でも同じこと、やってみなきゃ分からないことの方が沢山あります。

現在、研究機関の門戸は意外にも広く、結構ありますし、実際、研究者不足に悩んでいる分野も少なくありません。こんな私がどうにかなっているのですから、「研究者を目指す」意思のある方々にはぜひ将来を楽観的に捉えて、まずは目の前のことを充実させて下さい。

2013 (平成25) 年度日本地震学会論文賞を受賞

2011年東北地方太平洋沖地震による地震時の地殻変動を詳細に解析し、不均質な粘弾性構造を持つ地域での地殻の変形過程を明らかにしました。地震学に重要な貢献をした論文として評価されました。(詳細は、理学部ホームページをご覧ください。http://www-sci.yamagata-u.ac.jp/news/research/778.html)

Information

下記、推進室へご連絡ください。

小白川キャンパス保育所のびのび入所者募集

- ◎産後休暇明けから小学校入学前までの乳幼児が入所できます。
- ◎ご相談や見学も受け付けています。
- ◎入所申込書提出後、面談を経て随時入所できます。
- ◎下記の推進室ホームページから保育所HPをご覧ください。



Information

平成26年度の男性育児休業取得者は2名

- ◎平成22年度から今年度までに7名の男性が取得しました。今後も、男性の育児休業を取得しやすい職場環境を整え、多くの方に取得していただきたいものです。



小白川キャンパス 保育所のびのび 入所者募集

学生、教職員の皆さん、子どもさんを保育所に預けませんか？
「のびのび」では、個々に合ったきめ細かな保育を実施しています。
 見学も受け付けています。
 山形大学男女共同参画推進室
 y-danjo@jim.kj.yamagata-u.ac.jp
 電話：023-628-4938
<http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/mobinobi/index.html>
ご連絡をお待ちしています。

編集後記/ご協力いただいたアンケート調査結果を生かし、男女共同参画推進事業の実施に向けて検討して参ります。今年度スタートした保育所「のびのび」も無事1年を迎えることとなり、園児たちの成長にも目を見張られます。入所申込み、一時保育登録申込みを常時受け付けています。(2015年3月)



山形大学男女共同参画推進室

〒990-8560 山形市小白川町一丁目4-12
 TEL 023-628-4937/4938/4939
 E-mail y-danjo@jim.kj.yamagata-u.ac.jp
<http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/>